

「有機合成化学同窓会」の創設とその背景

PS会から有機合成化学同窓会への経緯

PS会の創設

昭和 55 年（1980）、有機合成研究室教授の板橋国夫先生が還暦を迎え、卒業生が一堂に会し祝賀会がホテルニュージャパンにて盛大に催された。この祝賀会において有機合成研究室卒業生同窓会の結成が話題となり、今後結成にあたって議論されることとなった。後日、当時駿河台校舎 4 号館 4 階の工業化学科会議室に主だった卒業生が参集し、同窓会の結成、名称等について議論した。同窓会結成は全員一致で承認された。同窓会の名称は様々な案が出たが、その頃の研究の中心テーマがリン化合物（P）とイオウ化合物（S）だったところから「PS会」としてまとまった。また同窓会会員は、昭和 45 年 3 月に有機合成研究室初代教授、庄野信司先生がご退職されたので、昭和 45 年 4 月（昭和 45 年度）から板橋国夫先生、山田翠先生に師事した研究室卒業生を第 1 期生とすることとなった。

尚、本会は特別会員（卒業研究、修士・博士論文をご指導いただいた先生方）と会員（学部卒、大学院修了）で構成され、卒業年度ごとに互選された幹事および幹事間で互選された役員が会の運営に当たることとなった。

初代会長には第 1 回生の佐藤 進氏（昭和 46 年 3 月卒）が選出された。

PS会会長一覧

初代会長 佐藤 進（昭和 46 年 3 月卒）

第 2 代会長 大木雅夫（昭和 46 年 3 月卒）

第 3 代会長 太田延幸（昭和 54 年 3 月卒）

「PS会」から「有機合成化学同窓会」へ

平成 27 年 11 月開催の「PS会」、「日本大学有機同窓会」¹⁾、「みどり会」²⁾の合同総会において、3 会統合が決議され、新同窓会名称として「有機合成化学同窓会」が発足した。

- 1) 有機合成研究室初代教授、庄野信司先生を指導教員とし、昭和 27 年 3 月～昭和 45 年 3 月までの同窓生（1 回から 19 回卒業生及び大学院修了生）で構成されている。
- 2) 有機合成研究室で山田翠先生に卒論指導を受けた卒業生、および山田先生が設立した「個体触媒化学研究室」を卒業した同窓生（昭和 61 年～平成 2 年）で構成されている。

「有機合成化学同窓会」

初代会長及び役員

初代会長：太田延幸（昭和 54 年 3 月卒）

副会長：小椋幸夫 監査：久保田博明

顧問：炭田幸宏・滝戸俊夫 オブザーバー：上條治夫

事務局：青山忠・早川麻美子

第2代会長 小櫛幸夫（昭和58年3月卒）

副会長：久保田博明 監査：青山忠

顧問：炭田幸宏・滝戸俊夫 オブザーバー：上條治夫

事務局：青山忠・早川麻美子・能勢いずみ

参考資料

研究室名変更

有機化学の一大分野である有機化合物の新規な合成方法を研究する学問の呼称は有機合成化学（Organic synthetic chemistry）が一般的であることから昭和63年より研究室名を「有機合成研究室」から「有機合成化学研究室」と改めた。

有機合成化学研究室教員変遷

○昭和24年（1949）	庄野信司教授	着任（台湾総督府中央研究所より（未確認））
○昭和45年（1970）	庄野信司教授	退職
○昭和47年（1972）	板橋国夫助教授	教授 就任
○昭和51年（1976）	滝戸俊夫助手	就任（理工学研究所出向）
○昭和53年（1978）	中沢利勝短大助教授	着任（染料研究室より移動）
	上條治夫短大助手	就任
○昭和61年（1987）	山田 翠短大教授	「固体触媒化学研究室」設立分離
○平成元年（1989）	滝戸俊夫専任講師	就任（理工学研究所出向解除）
○平成2年（1990）	板橋国夫教授	退職
○平成4年（1992）	妹尾 学教授	着任（東大名誉教授）
○平成5年（1993）	上條治夫短大助手	短大専任講師就任（短大研究室へ移動）
○平成6年（1994）	中沢利勝短大助教授	短大教授 就任
○平成9年（1998）	中沢利勝短大教授	退職
○平成11年（1999）	滝戸俊夫助教授	教授 就任
○平成11年（1999）	大月 穰専任講師	着任（東大より）
○平成12年（2000）	妹尾 学教授	退職
○平成14年（2002）	青山 忠助手	着任（日立化成株より）
○平成20年（2008）	青山助手 専任講師	就任
○平成22年（2010）	大月 穰教授	就任
○平成23年（2011）	大月 穰教授	「超分子化学研究室」設立分離
○平成26年（2014）	滝戸俊夫教授	退職
○平成27年（2015）	大内秋比古教授	着任（産総研より）
	青山 忠専任講師	准教授 就任
	早川麻美子助手	着任
○平成30年（2018）	早川麻美子助手	退職